

⑤ Int. Cl.²
H 01 H 37/00
D 06 F 71/00

⑤ 日本分類
48 C 33
59 H 42

⑨ 日本国特許庁

⑪ 特許出願公告

昭50-13878

特 許 公 報

④ 公告 昭和50年(1975)5月23日

庁内整理番号 7193-54

発明の数 1

(全 3 頁)

1

⑤ ズボンプレス器

⑥ 特 願 昭44-49097

⑦ 出 願 昭44(1969)6月17日

⑧ 発 明 者 岡田勝郎

門真市大字門真1006松下電器
産業株式会社内

⑨ 出 願 人 松下電器産業株式会社

門真市大字門真1006

⑩ 代 理 人 弁理士 中尾敏男 外1名

図面の簡単な説明

第1図は本発明の1実施例を示すズボンプレス器全体斜視図、第2図は第1図のII-II線における要部断面図、第3図は同電気回路図、第4図は

発明の詳細な説明

本発明は一對の固定挟持板と可動挟持板を備え、ズボン等を両挟持板の間に挟圧してプレス仕上げるズボン等のプレス器において、美しいプレス仕上げを得ると同時に折り目が非常に消え難い機構を提供しようとするものである。

一般にズボン等のプレス仕上げを行う場合霧吹き等で水分を適度に与え加熱することによつて折り目を付けるが、折り目付けが終つたならば水分を除去しないと短時間で折り目が消えたりまた不要のシワができやすくなる。

従来この種のズボンプレス器では固定挟持板もしくは可動挟持板のいずれか一方に発熱体を設け、ズボン等に霧吹きを行ない生地が傷まない程度の一定温度に長時間保ちプレスしていたが、この場合、ズボン等の除湿が十分にできず、折り目が短時間で消える欠点があつた。また除湿を促進するために発熱体を設けていない他の一方の挟持板に通気孔等を設けているものもあつたが、厚いクツシヨン層等を有しているため十分に除湿ができなかつた。そしてまた両挟持板に発熱体を設けたも

2

の、あるいはズボンの筒部と筒部の間に発熱体を挿入するもの等もあつたが、これらは折り目付の効果は向上したが除湿効果はないものであり、いずれも折り目が短時間で消える欠点があつた。これらのものは除湿を少しでもよくするために非常に長時間を要する欠点もあつた。

本発明はかかる欠点を除去し短時間に折り目を付け短時間に除湿をし、美しいプレス仕上げをしようとするものである。以下本発明の1実施例を示す添付図面により詳細に説明すると、1は固定挟持板で、合板等の基板2、下発熱体3、起毛布4が順次積層接着されている。5は可動挟持板で、合板等の基板6、断熱耐熱性クツシヨン層7、上発熱体8、被プレス物の凹凸および水分を吸収するための耐熱性クツシヨン層9が順次積層され、伸縮性の布10により一体に固定されている。11は前記両挟持板1、5を回動自在に連結する蝶番、12は締付具である。

第3図において上下両発熱体3、8の温度制御を行なう回路を説明すると、上下両発熱体3、8と直列にタイムスイッチSが接続され、上下発熱体3、8はそれぞれ並列に接続されており、上発熱体8と直列に高温サーモスイッチT₁、下発熱体3と直列に低温サーモスタットT₂が接続されている。

かかる構造において、ズボン13等を前記両挟持板1、5の間に挿入し挟圧セットしてタイムスイッチ3、高温サーモスイッチT₁をONにすると、低温サーモスタットT₂もオンし、上・下両発熱体3、8へ給電され加熱が開始される。このときの各部の温度曲線は第4図に示すようになる。すなわち、固定挟持板1の温度は破線で示すようにA点まで達すると低温サーモスタットT₂が働いてOFFとなり、以後ON、OFFを繰り返して一定温度Cに保たれる。可動挟持板5の温度は一点鎖線で示すように固定挟持板1が一定温度となつた後も上昇し続け、短時間加熱してもズボン

3

13等の生地を傷めない高温100～130℃のP点に達すると、高温サーモスイッチ T_1 が働いてOFFとなり、上発熱体8への給電を断じる。したがって以後時間の経過とともに放熱し、固定挾持板1より低い温度まで下降する。またズボン13の温度は実線で示すようにA点までは上下両発熱体3, 8により加熱されて上昇し、その後は上発熱体8の加熱によりP点近くまで上昇する。その後上発熱体8への給電が断たれると同時にB点まで下降し以後は固定挾持板1の加熱により一定温度 θ に保たれ、タイムスイッチSの設定時間Dに至ると下発熱体3の給電が断たれるが常温まで下降する。

以上の様な温度でズボン13等をプレスした場合、固定挾持板1の起毛布4、可動挾持板5のクッション層9に含まれている水分は上・下発熱体3, 8の加熱により蒸発しズボン13に浸入する。この浸入した水分とズボン13に含まれている水分と高温Pの働きにより、確実に強い折り目付けがなされる。

その後ズボン13の温度より低く、かつ急速に可動挾持板5の温度が下降するので、ズボン13に含まれている水分は固定挾持板1の加熱により折り目が付いたままの状態でクッション層9に蒸発吸収される。なお固定挾持板1の一定温度 θ はズボン13の水分を蒸発させるに十分な温度に設定されており、ズボン13と可動挾持板5との温

4

度差が大きくなるので水分の吸収がより促進されるものである。

従つて美しい折り目が付けられ、かつ水分が非常に少なく、折り目が長時間消えないズボン等のプレス仕上がりができるものであり、当初に起毛布4、クッション層9に適当なる水分を与えておけば、ズボン13とクッション層9の間を水分が往復するのでプレスする毎にズボンに霧吹きをせずとも美しいプレス仕上がりができ非常に便利なものである。

さらにズボン等の生地により高温サーモスイッチ T_1 を可動式にすればより理想的であり、クッション層9の水分をときどき補給するのはいうまでもない。

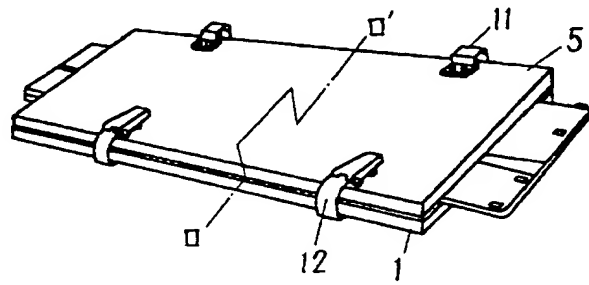
⑦特許請求の範囲

- 1 可動、固定両挾持板に発熱体を設けるとともに、いずれか一方にクッション層を設け、上記発熱体の一方に、通電を制御するサーモスタットを直列接続し、かつ他方に、前記サーモスタットより高い温度で作動するサーモスイッチを直列接続するとともに、これらの発熱体を互いに並列接続したことを特徴とするズボンプレス器。

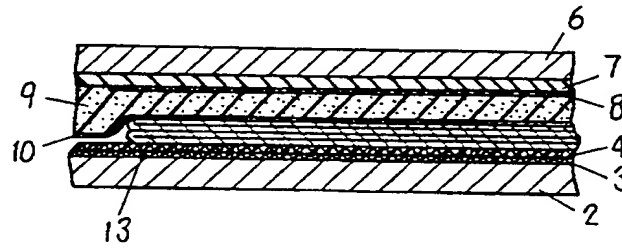
⑧引用文献

実 公 昭40-6395

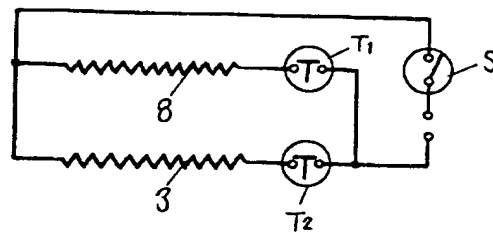
第1図



第2図



第3図



第4図

